

スペイン、カタルーニャにおける建築の 近代化過程に関する理論的研究と実践的展開

研究代表者 人見 将敏
(理工学術院総合研究所 次席研究員)

1. 研究課題

本研究は、今日の建築デザインを考えるにあたり、その背景となる過去の事象、特に地域固有の建築・都市の近代化過程を再検証しデザインの本質的・理念的様態を捉えることで、現代の多様な要求へと実践的に応えることを目的とする。

まず理論的研究としては、スペイン・カタルーニャ地方の建築・都市の近代化過程を対象に建築論・存在論的研究を行う。本研究では建築家集団 G.A.T.C.P.A.C. (現代建築の発展を目指すカタルーニャの建築家技術者集団 Grup d'Arquitectes i Tècnics Catalans per al Progrés de l'Arquitectura Contemporània、1930-39) の活動を中心に扱うことで、地理的・文化的背景の影響を受けヨーロッパの中でも独自の発展を遂げた当該地域の建築思潮の一端を明らかにする。当該集団は、工業化に起因する地域固有の都市問題に対し、人々の生活環境改善を目指し建築設計や都市計画提案からの解決を試みた。その際、産業発展に伴う建築生産体系の技術的展開だけでなく当該地域の伝統的民家・集落の特質へと遡及することで物質と精神の両面から人々の住まいの在り様を問い、より人間的で豊かな建築・都市の近代化を志向したという点がこれまでの研究により明らかにされている。当時のヨーロッパに流布していた新しい建築概念の受容に留まらず自国の文化的背景との調和を模索した様子がその活動から窺える。研究課題としては、当該集団の言説や計画提案から、都市と自然が近接する当該地域の環境における住まうことの在り方を包括的に捉える。また上述の理念的研究と併行して実践的研究を行い、今日的な様々な問題や高度化する技術発展を建築デザインとしてどのようにまとめ活用するのかを課題として取り組む。

2. 主な研究成果

2.1 ハーバード大学ロエブ建築デザイン図書館における調査



当該集団に関する一次資料は主にスペインとアメリカに存在する。筆者はこれまでに前者、特にバルセロナ市にあるカタルーニャ建築家協会 Col·legi d'Arquitectes de Catalunya の資料室において継続的に調査を行いその成果を随時まとめてきた。今年度は新たに後者において調査を行い、具体的にはアメリカ・ハーバード大学ロエブ建築デザイン図書館 Loeb Design Library (左写真) 内の資料を対象とした。同館の特別資料室にはジュゼプ・リュイス・セ

ルト Josep Lluís Sert (1901-83、以下セルト) に関する資料が所蔵されている。セルトは当該集団のリーダー的存在であり、またスペイン内戦(1936-39)の影響によるアメリカ亡命後に同大学デザイン学部の学部長に就任した人物である。今回の調査ではその保管資料から当該集団の活動に関わる資料を対象として選出・複写を行いデジタル・アーカイブ化した。同資料には未発表のものも含まれており、その整理・分析により、主にスペイン内で行われている当該集団の既往研究に新たな知見をもたらすことが期待される。

2.2 公募型プロポーザルへの提案を通じたケーススタディ

プロジェクト研究「建築デザインを介した生活空間支援の実践的研究」(研究代表者: 小林恵吾) の協力者として、年間を通じ四点の公募型プロポーザルへの作品提案を行った。二点は保育、もう二点は観光という今日的な課題をテーマとしており、対象敷地である地方都市の現状をふまえ、生活者への支援と場所の活性化の観点から計画を進めた。また木材利用の促進についても建築環境デザイン的視点からの提案を行い、同材利用技術の新たなモデルとなることを目指した。

2.2.1 八幡浜市保内総合児童センター(仮称)デザイン設計競技



愛媛県八幡浜市における、子ども・子育て支援の核となる保育所・児童センターの計画提案。地域内には豊かな自然環境と明治からの産業遺構や街並みが残り、また敷地周辺は市街地として文化・行政・福祉施設が広がる。自然・歴史・文化に根ざしながら新しい時代への知のインフラとして保育の場が創出されることを目指した。「日土小学校」など日本近代を代表する木造学校建築を地域に残した建築家松村正恒の思想も継承しながら、保育の家並み・街並みが作り出す多色彩による賑わいと交わりの場を提案した。

2.2.2 (仮称) 坂本こども園建築設計委託業務に係る公募型プロポーザル



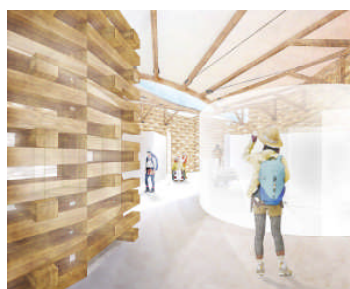
岐阜県中津川市坂本地域における公設認定こども園の計画提案。将来リニア中央新幹線が開通予定である同地域では、今後の発展と子育てニーズの高まりが見込まれる。今後地域の様相が変化する中での幼・保育の骨格を問う際に、周囲を360° 囲む山々や自然の風景が子供たちの変わらぬ原風景となり得ることを主題として捉えた。周辺環境と呼応するように円環状に保育室や子育て支援室等を配し、地域の核となるよう場を目指した。

2.2.3 刃物ミュージアム回廊基本設計・実施設計等業務委託に係る公募型プロポーザル



岐阜県関市における「刃物ミュージアム回廊」と称された整備事業を展開する中での、刃物会館の建替えと地域交流施設、広場等の計画からなる複合拠点の提案。地場産業の中心である刃物産業の歴史文化・技術・情報等の受発信と、産業・観光振興への連携が継続的に行われるよう、周辺の関連施設や自然環境へと広がる回遊性を主題として、起・終点となる場を提案した。

2.2.4 六甲最高峰トイレ新築工事設計業務公募型簡易プロポーザル



兵庫県神戸市の六甲山最高峰における登山者のための休憩所兼トイレの提案。高地という条件化での施工性・耐久性・維持管理だけでなく、木材利用や、瀬戸内海国立公園区域の指定に応える建築デザインが問われた。最新のバイオマス浄化システムの利用やビオトープの設置、間伐材の組み合わせによる構造壁の提案等により、生態系の循環を主題とし可視化する装置としての場の創出を目指した。

3. 共同研究者

小林 恵吾 （創造理工学部 建築学科・准教授）
入江 正之 （創造理工学部 建築学科・名誉教授）

4. 研究業績

4.1 学術講演

人見将敏、「近代建築運動体 GATCPAC による機関誌『A.C.』について（4） -1930 年代カタルーニャ近代建築運動研究」、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集 F-2、2017 年 8 月、pp.945-946

5. 研究活動の課題と展望

本年度では、研究課題の内、理念的研究については新たな入手資料により一定の成果を得、今後はその精査により、既往研究に対し統合的・建築論観点から新たな指針を提示したい。また実践的展開としては、現代社会の喫緊の問題に対する建築デザインの提案を行い、今後同様のスタディを継続していく。建築とは関わる人々・地域・自然の運動の総体の表出であると捉えるならば、それは常に過程の中に存在する。故に、過去と現在とを連関させながら、今後も建築理念の構築に向けて研究を進めていきたい。